



の み が わ

2021年7月6日発行(通算第104号)

連絡先 〒145-0061 大田区石川町1-26-8

発行 呑川の会 代表 高橋 光夫

呑川の会 e-mail: mitsuo.takahashi@nifty.com

呑川の会 HP <http://nomigawanokai.net/>

高橋会員 HP <http://homepage2.nifty.com/aoiyume/>



第6回 池上呑川・夏休み こども こいのぼり大会

記：白石 琇朗

大田区を中心・池上本門寺参道・霊山橋～妙見橋間

*開催展示期間 7月30日(金)17時～8月2日(月)10時

*池上小学校・池上第二小学校・2年生

可愛らしい手作り鯉のぼり



必見！池上呑川に名物として評判になりました。



2019年5月霊山橋から撮影

春のゴールデンウィーク開催予定がコロナウイルス緊急事態宣言でずれたため、今年は特別に「呑川・夏休み こどもこいのぼり大会」として、「大人の布製・鯉のぼり」は除いて、梅雨明けの夏休みオリンピック開催時に展示することにしました。

1. 開催展示： 7月30日（金）17時～8月2日（月）10時（雨天時は翌週に順延）
池上小学校・池上第二小学校2年生、3人一組で手作り鯉のぼり作成
・2017～2019年度作成：マイラー紙製・125匹 長さ84cm・幅30cm
・2021年度作成：不織布紙製・60匹 長さ109cm・幅40cm
2. 実施方法：① 7月30日（金）13時半～：池上特別出張所3階会議室
「手作り鯉のぼり」をロープに結び付ける準備作業
② 17時前頃から約1時間、霊山橋から妙見橋間に鯉のぼり吊り下げ作業
③ 8月2日（月）10時～：撤収片付け作業（妙見橋）

2021年4月17日（土）

「呑川の会」総会報告

記：高橋 光夫

「新型コロナウイルス」の広がりや収まる気配を見せず、不安を抱きながら、比較的「換気」の良い会場（大田区消費者生活センター講座室）を確保して、総会は開かれました。

* 「世話人会」に松本 秀雄さんが加わりました。

- ・代表：高橋 光夫 ・副代表：白石 琇朗
- ・世話人：菱沼 公平 南 弘元 古海 信雄 菊池 均
橋本文興 安岡 達郎 小熊 健司 松本 秀雄
- ・事務担当：菊池 均 菱沼 公平
- ・会計：橋本文興 ・会計監査：南 弘元
- ・その他に、HP担当・定例会等会場確保・会報編集 印刷発送・
小学校「呑川学習」支援・池上鯉のぼり大会・エコフェスタ等の
イベント・物品倉庫管理・「呑川読本」編集委員会・呑川連続講座・都市河川ウォーク・定例会後の「ミニ講座」・「呑川ネット」等の遂行のため、適宜担当者を決めて、みんなで分担しあいます。



* 都市河川「呑川読本」に対する河川財団助成金（河川基金）が認可されました。

うれしいことに、総会直前の4月2日に「河川基金」が認可され、財政的基盤が確立しました。「編集委員会」の作業のピッチを上げ、2022年3月には完成させなければなりません。

* 2020年度の会計報告が承認され、2021年度の予算が決まりました。

新年度の予算では、従来から積み立ててきた費用の一部が、「呑川読本」作成のための業者支払い「立替金」として計上されています。

* 呑川の会「規約」を補完する「細則」が定められました。

「会費」の支払い期限や、振込用紙の送付など事務的作業などを明確にして、会員資格とも連動

させ、会費納入へのご協力をお願いすることにしました。

- * 今総会では、議事終了後、「**曼珠沙華（ヒガンバナ）咲く呑川**」（高橋）の「ミニ学習」を行いました。しかし12月の定例会後の「忘年懇親会」も、4月の「総会」後の「懇親会」も開くことが出来ませんでした。「コロナ渦」のためとはいえ、今後の見通しが立たず、とても残念です。

都市河川「呑川読本」(仮称)の経過と今年度の計画

記：白石 琇朗

2017年2月に「編集委員会」が発足し、原稿執筆の依頼・原稿のチェック・出版費用の基礎となる編集費や、印刷・出版費用、郵送費用などの見積もり等を進めてきました。

1. 出版費用の捻出についての助成金申請

・「呑川の会」の財政に余裕は無く、「助成金を得なければ出版が出来ないので、大田区や各財団の助成金を幅広く検討し、ていねいな申請書づくりをし、申請に努力をしました。

- 1)「大田区・チャレンジ助成(200万円)」(2019年度)・・・申請、却下。
- 2)「大田区・チャレンジ助成(200万円)」(2020年度)・・・区と事前相談して再申請、却下。
- 3)「東急財団・研究助成(100万円)」(2021年度)・・・申請受領されるが審査不合格。
- 4)「河川財団(河川基金)川づくり団体助成(100万円)」・・・2020年10月申請 → 2021年3月認可。
- 5)「大田区・ステップアップ助成(40万円)」・・・区と相談の上、申請(2021年2月)受理 → 辞退(4月)。

多くの助成金申請作業は、結果的に「河川基金」の助成金認可に結びつきました。

2. 2021年度の作業予定

・ 助成金の認可を受けたので、印刷・出版から発送まで、確実に予定通りの作業を進める。

スケジュールは下記の通り。

- 1) 基礎原稿・執筆の完成・・・・・・・・・・・・・・・・(2021年4月～5月)
- 2) 基礎原稿の編集委員会による内容検討と修正・・・・・・・・(2021年6月～8月)
- 3) 掲載写真・図表・地図などのチェック・・・・・・・・(2021年9月)
- 4) 著作権問題等の検討と確認・・・・・・・・・・・・・・・・(2021年10月)
- 5) 索引項目の選び出し・・・・・・・・・・・・・・・・(2021年10月)
- 6) DTP業者への本文デザイン・版下作成依頼と打合せ・・・・(2021年11月)
- 7) 初校正ゲラ完成と執筆者による校正チェック・・・・・・・・(2021年12月)
- 8) 再校正ゲラの完成と編集委員会の最終校正とチェック・・・(2022年1月～2月)
- 9) 「呑川読本」の完成データを印刷会社に入稿・・・・・・・・(2022年2月)
- 10)「呑川読本」の完成と配付・郵送・・・・・・・・(2022年3月)

3. 「河川財団」への成果報告と助成金受取条件

・ 「河川財団」への「完了報告書」には、助成事業の「成果」まで報告しなければならない。

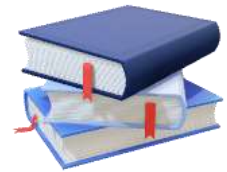
そのため「呑川読本」の完成によって、小学校呑川学習の依頼が増えたなど、目に見える大きな成果でなくても、「自分の学校でも呑川ウォークの実施を検討したい」などの先生からの反応があった・・・等を記載する必要がある。(助成金支払いの条件は「成果」の記載) そのため、少しでも早い完成と図書館などへの発送作業が求められる。

- * 河川財団助成金は、申請額(100万円)の最高額全額が認められました。
- * 印刷・製本費は、B5判 1200冊(表紙4頁 本文240頁)での見積額。
- * 実際の見積もり額は、編集完了後のページ数や装丁、郵送数によって変動がある。
- * 見積もり額と助成金(100万円)との差額が、呑川の会の財政負担金となる。
その財政負担をなるべく軽くする為に、「利益」を出さない範囲で、書店販売や「呑川講座」参加者販売などで有料販売に努力する。
- * 「編集委員会」は編集業務に集中し、「財政管理」は「世話人会」で行う。

4. 出版関連費用について

費用内訳	河川財団 採択助成金	見積もり額(仮)	呑川の会 会計負担額
「呑川読本」印刷・製本費	500,000	626,000	
委託費(DTP編集・装丁デザイン)	360,000	360,000	
「呑川読本」発送・郵送費	120,000	117,000	
雑費(交通費・会場費・インク・ コピー用紙・その他の諸費用)	20,000	63,000	
(合計)	1,000,000	1,166,000	166,000

* 「都市河川・呑川読本」・目次(概要)



第1章 呑川の本流・支流の流れ

1. 呑川の概要
2. 呑川源流域の流れ
3. 呑川中流域の流れ・支流
4. 呑川下流域の流れ
5. 旧呑川の流れ
6. コラム 呑川の川名の由来

第2章 呑川の水

1. 水質の変遷
2. 現在の水がもたらしている環境
3. 切っても切れない下水道との関係
4. 悪臭、スカム等、魚の大量死を招くメカニズム
5. 下水越流の頻度と中流域における汚濁・悪臭等の状況
6. 汚濁・悪臭域をなくす改善策
7. 水質浄化対策の今後の見通し

第3章 呑川で出逢える生きものたち

1. 呑川の生きものの特徴
2. 呑川に生きる魚たち
3. 呑川で繁殖する昆虫たち
4. 野鳥

第4章 呑川沿いの植物

第5章 呑川の水害

1. 呑川の水害
2. 呑川の水害対策

第6章 呑川と流域住民のかかわり (明治以降)

1. 飲み水として利用・近世の水事情
2. 海苔養殖事業と漁業
3. 明治初期の呑川流域農業
4. 流域の土地利用の変遷(昭和41年版呑川は流れる)
5. 現在の住民の呑川利用

第7章 呑川の橋・道路

1. 橋の概要
2. 橋の構造 その特徴
3. 呑川の橋の利用状況
4. 呑川(旧呑川)に架かる橋名の由来

第8章 呑川と文化

1. 呑川と文芸作品
2. 映画
3. 芹澤銈介

第9章 呑川の歴史

1. 呑川はどのようにして出来たか（旧石器・縄文・弥生・古墳～中世・鎌倉室町時代）
2. 江戸時代
3. 戦前（大正時代～昭和20年まで）の呑川
4. 呑川現代史

第10章 呑川の未来

1. 大田区の郷土の川として望まれること
2. 呑川を廻る市民活動
3. 行政（大田区&東京都）による未来像
4. 市民が描く未来の姿：グランドデザイン

第11章 呑川の地図

残された最後の砦(自然河床)・・・ 仲之橋周辺河床のコンクリート埋立

記：高橋 光夫



2021年6月14日 大田区の都市基盤整備部と青べかカヌークラブ・呑川の会で現地説明会が開催された。降りしきる雨の中、仲池児童公園で立ち話であったが双方の意見交換を行った。

[ここは久が原二丁目と仲池上二丁目に挟まれた「仲之橋～根方橋」の呑川] 川の中央に「アシ」の植栽を施した呑川で初めての自然環境改善工事が行われた。長谷川氏（青べかカヌークラブ）・増田直也氏（内川をよみがえらせる会）・

伊藤和子氏（入江の会）らが東京都に連名で要望し実現した。（1997年当時、「呑川の会」は設立されてまもなく、この活動に加わっていなかった。）それが今、大雨による濁流で植栽は流され、「植栽ロール」や「蛇籠」が散乱した無残な河床となったが、「自然河床」らしい景観を残した。



「アシ」が流された跡には「オオカナダモ」などの水棲植物が繁茂し、水質は浄化され、深みのある静水域を利用して「ボラ」たちはここで休憩し、「ウナギ」や「ナマズ」たちの棲みかになり、「ギンヤンマ」たちはここで産卵のために集まり、ここは呑川の楽園となった。しかしこの深みは河床清掃の重機の走行に邪魔になり、コンクリで埋められる計画が持ち上がった。呑川の最後の砦・この環境をみんなの知恵でなんとか残したい。



「仲之橋上流側のコンクリ河床」

春の都市河川・桜ウォーク

— 町田市・恩田川 ウォーキング —

記：白石 琇朗

3月27日（土）JR 横浜線町田駅に10時に集合して、地元在住の内村会員の案内でバスに乗り、恩田川の高瀬橋で降り、歩きだしました。

恩田川は町田市本町田付近を源流として13.1キロ流れ、横浜市緑区中山付近で鶴見川の最大支流として合流する一級河川です。高瀬橋は恩田川の中流で、ここから下流に向かって都橋まで兩岸に400本のソメイヨシノの桜並木が続くことで有名で、ちょうど満開の桜を楽しめました。

高瀬橋下流左岸の河原に階段で降りられる親水



親水広場



広場があり、きれいな水面と流れ込む支流が間近で見られ、見上げれば空から桜が降り注ぐようで見所でした。川は緩やかに曲がっている流れが、鹿島橋から真っ直ぐになり、弁天橋左岸下流の**弁天橋公園**の池で釣り糸を垂れる人々を見て、トイレ休憩しました。次の扇橋を渡ると流れはカーブして、右岸の小高い丘にある成瀬城址の城山公園下から会下山橋を潜り、桜並木の川を人道の二反田橋の上から眺めながら渡りました。河床は岩があり、落差のある魚道があったり、分流式の下水道なので、湧き水が流れ込む箇所が随所にあり自然河川の様相です。西山橋から成瀬中央橋を過ぎると右岸に総合体育館があり、その先の江戸時代に旗本・井戸石見守の穀倉屋敷と言われる雰囲気の良い**堂之坂公苑**の東屋でゆっくり昼食休憩をしました。昼食後、成瀬中央橋から桜並木の続きを歩き、



段差のある魚道



川床には自然岩



河原に降りる石段が多い

向橋・吹上橋を過ぎると、桜並木終点の都橋ですが、自然の灌木でカワセミが魚を狙って身構えている姿を、カメラマンが撮影していました。カワセミは町田市市の鳥です。その先の町田市の外れのクリーンセンター（下水処理場）からの排水で水量が増えます。親水階段があり、降りると処理水が流れ出しているのが良く分かりました。横浜市に入り、柳橋先の小川沿いに右折して恩田川と別れ、長津田駅に向い、2時に解散しました。天候に恵まれた、とても素晴らしい桜満開ウォークでした。



二反田橋にて

呑川沿い・初夏の野草ほか（ハンゲショウ、ムシトリナデシコ
アメリカイヌホオズキ、ギボウシ、アレチハナガサ、クチナシ）

記：橋本 文興



（呑川の支流、洗足流れ）



（半夏生の花）

「ハンゲショウ」半夏生、別名 カタシロクサ

暦の「半夏生」(夏至から数えて11日目・7月2日)の頃に花が咲くこと。また花期に葉の半分だけが白くなるので「半化粧」とされたのが名前の由来と言われる。花期は6～8月。原産地は日本、フィリピン、中国。水辺や湿地に自生する、梅雨明け前に涼しげに見える。草丈60～100cm、上部の葉腋から花序を出し、小さな白い花を付ける。花には花弁も萼もない。ドクダミと同じ地下茎で増え、多年草、独特の臭気がある。花が終わって真夏になると元の緑に戻っていく。虫媒花であるため偽装。ドクダミ科。

半夏生は夏の季語としてつかわれる、「花は葉に隠れ咲ける半夏生」 稲畑汀子氏、575筆まかせより。



（ムシトリナデシコ・池上 養源寺橋）

（アメリカイヌホオズキ・雪谷 居村橋）



（実の状態）



「ムシトリナデシコ」 虫捕り撫子 別名コマチソウ、ムシトリバナ

ヨーロッパ原産、江戸時代に観賞用として渡来した。茎の粘液で虫を捕ると思われたのが名の由来。実際、枝だか分泌する粘液に小さな虫がついていることがあるが、食虫植物ではない。全体が粉白色を帯びた緑色の葉、葉は対生し茎を抱く。花期5～6月紅色や淡紅色、白色の花は直径1cmほどで小さいが密集して付くので見栄えがする。草丈30～60cm、ナデシコ科。「花言葉」：未練、哀れみ

「アメリカイヌホオズキ」 亜米利加犬酸漿

北アメリカ原産の帰化植物。葉は先が尖った卵型、不揃いの鋸歯がある。花は直径4～6mmで淡紫色のものが多いが、白花も見られる。花冠は五つに裂けた星のような形をしている。果実は球形で黒く艶がある。呑川沿いには近似種のイヌホオズキも多い。イヌオズキはアメリカイヌホオズキより葉の幅が広く厚みがある。イヌホオズキの花は白く、花冠が反り返っていて、果実は艶がない。草丈30～60cm、ナス科

「花言葉」：嘘、真実



(ギボウシ・久が原 道々橋)



(アレチハナガサ・雪谷 雪の橋)

「ギボウシ」 擬宝珠 (ホスタ) キジカクシ科

多年草で約20種が自生する。青色(白色)の細長い花を付ける。東アジア原産、江戸時代から観賞用として栽培されていた。日陰でも良く育つ。ドイツのシーボルト(1796～1866)博物学者によってヨーロッパに紹介され品種改良が進んだ。植物のつぼみが橋や寺社の欄干に取り付けられている装飾物に似ていることが名の由来。食用になるがバイケイソウ(毒草)に似るため注意必要。花期7～8月、花言葉:「沈静」無益

「アレチハナガサ」 荒地花笠 クマヅラ科

南米原産の帰化植物、草丈50～150cm、全体的に毛がある、茎は直立し4稜、葉は広線形、鋸歯あり。花は茎の先にいくつも重なって付く淡青紫色、花穂は開花に伴い伸長する。花期4～11月、果実は4分果。近縁種の「ヤナギバハナガサ」は園芸種、別名三尺ペーバナと呼ばれる。



(クチナシ・西蒲田 若宮橋)



(クチナシの花)



(シモツケ・雪谷 山下橋)

「クチナシ」 梔子 アカネ科 常緑広葉中低木

呑川上流から下流まで所々、緑道の植え込みに植栽されていて葉のポリウムもある。梅雨時純白の6弁花を咲かせ、強い香りを漂わせ、ジャスミンのような芳香がある。花期、6～7月、花は一重や八重咲き(オオヤエクチナシ、八重咲きは仲之橋公園)も見られる。近縁種としてコクチナシは30～40cmで地を這う。

マルバクチナシもある。樹高は1～1.5m程度の低木。果実(11～12月)は楕円形で晩秋から冬に橙赤色に熟す、食品の着色(栗きんとん や たくあん)に利用される。「花言葉」：洗練、喜びを運ぶ

「シモツケ」バラ科 落葉低木

日本原産、初夏の花代表、別名キョウカソコ(枕草子にも出てくる)花色赤紫、ピンク、白など寒さに強い。和名は下野国(栃木県)で発見されたのが名の由来。高木の植え込みとして採用されている。

樹高 20～100cm、葉は互生し、枝先に複数房形花序に多数の花を付ける。果実は球形の袋果 5 付く。

花期は 5～8 月と長い。「花言葉」：努力、無駄、

*参考図書 五感で楽しむ野草図鑑 著者：高橋修 発行所 (株)ナツメ社、 花言葉：wikipedia より

「呑川の会」当面の活動日程

記：高橋 光夫

*「新型コロナウイルス」の影響で、変更することがあります。ご注意ください。

<p style="text-align: center;">「呑川読本」編集委員会 2021年7月9日(金) 13:30～17:00 ふれあいはすぬま・第1集会室</p> <hr/> <p>*ほぼ毎週開催しています。 *原稿の詳細チェックを進めています。</p>	<p style="text-align: center;">「呑川の会」7月定例会 2021年7月15日(木) 13:30～16:30 「消費者生活センター」講座室</p> <hr/> <p>*コロナ対策前の通常開催に戻ります。 *「世話人会」は同会場で10:00～開催</p>
<p style="text-align: center;">「呑川・夏休み こどもこいのぼり大会」 2021年7月30日(金) 17時～ 8月2日(月) 10時 池上本門寺参道・霊山橋～妙見橋間</p> <hr/> <p>展示前後に、鯉のぼりの設置・撤収作業があります。都合の良い方はご参加ください。</p>	<p style="text-align: center;">「呑川の会」8月定例会(未定) 2021年8月21日(土) 13:30～16:30 「蒲田小学校」会議室</p> <hr/> <p>* コロナ対策前の通常開催に戻ります。 *「世話人会」は同会場で10:00～開催 * 直前のコロナ状況で変わりますので、HPでご確認ください。</p>

(編集後記).....(記：白石 琇朗)

今年のカルガモは不調で、呑川に5月11日から4回(2・4・4・4羽)現れましたが、1回あたり



のヒナの数が少なく寂しい上に、池上付近ではあまり滞在せずに、久が原・仲池上の長栄橋から仲の橋付近の、常時お休みできる箇所には居座っているのが特徴です。しかし7月になり、強い雨が続き、流されていないか心配です。